

〔例題 1〕各種動物の麻酔に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 超短時間作用型バルビツレートであるチオペンタールは、通常、静脈内投与後30秒程度で入眠をもたらすが、ボルゾイやアフガンハウンドなどの筋肉量の少ない犬種では、麻酔導入が遅延することが多いので注意を要する。
2. ウシにおいて長時間の全身麻酔を横臥位もしくは仰臥位で行うと、嘔気（おくび）の抑制に伴って第一胃鼓脹症が発生しやすいため、呼吸抑制や循環障害に注意を要する。
3. 鳥類は、喉頭口が確認しにくく、また肺胞を持たないなど、呼吸器系の形態が哺乳類とは大きく異なるため、吸入麻酔薬はほとんど使用されず、注射麻酔薬が好んで使用される。
4. 頭蓋内に占拠性病変を持つ動物の麻酔では、脳血流量、頭蓋内圧を上昇させないように、ケタミンが好んで使用される。
5. プロポフォールは麻酔導入と覚醒がきわめて早い、胎盤を介した胎子移行性も高く、胎子が重篤な低血圧に陥ることが多いため、妊娠動物への使用は禁忌である。

〔正答 2〕

〔例題 2〕尿汚水の処理法において、嫌気性生物処理法に分類されるのはどれか。

1. 活性汚泥法
2. 生物膜法
3. 酸化池法
4. 土壌処理法
5. メタン発酵法

〔正答 5〕